

令和3年度

社会福祉法人長野りんどう会

事業報告

令和4年6月

# 目 次

項 目	ページ
はじめに .....	1
一 法人運営 .....	2
二 各サービス事業の実績	
1 指定生活訓練事業(フレッシュとくま) .....	9
2 指定宿泊型訓練事業(フレッシュとくま) .....	10
3 指定生活介護事業(フレッシュとくま) .....	12
4 指定短期入所事業(フレッシュとくま) .....	14
5 指定就労移行支援事業(ワークス上駒) .....	15
6 指定就労継続支援B型事業(ワークス上駒) .....	16
7 指定就労定着支援事業(ワークス上駒) .....	19
8 地域活動支援センター事業(スローステップ) .....	20
9 指定一般相談支援事業(相談室) .....	22
10 指定特定相談支援事業(相談室) .....	23
11 指定共同生活援助事業(グループホーム) .....	24
12 指定自立生活援助事業(自立生活支援室) .....	26
13 指定居宅介護事業(ヘルパーステーションてくてく) .....	28

## はじめに

令和3年度も、より一層コロナ対策を強化した一年となった。

その成果か、利用者2人が家族からの感染でコロナ陽性となったが、事業所内での職員、利用者の感染拡大にはならなかった。コロナ対応で2日ほど通所事業を休止としたが、全体としては、給付費の収入減とはならなかった。

令和3年度末で、地域活動支援センター事業（スローステップ）と就労移行支援事業（ワークス上駒）の2事業を廃止とした。

廃止の理由として、スローステップは、法定福祉サービスの充実や利用ニーズの変化で利用者の減少、また、就労移行支援事業は、ここ数年、就労者は出せるが、新規のサービス利用者の確保が出来ないことが続いたためだった。

今後の一般就労への支援は、就労継続支援B（Ⅰ）型事業所で引き続き行い、新たに今まで課題となっていた働くために多くの支援を必要とする就労継続支援B（Ⅲ）型事業所の開設を視野にいった前向きな廃止となった。

令和3年4月から、タイムカードの本格導入で、職員の勤務状況が目に見えるようになった。また、公用車のリース化に伴い、安心安全な公用車が使用できるようになり、生活介護事業等でますます送迎希望者が増加している状況で職員の心的負担の軽減にもなった。

女性が多い職場ならではの産休・育休の対応や年度途中の急な職員の退職にも柔軟に対応できるよう職員一同結束できた。

今年度は、2人の職員が国家資格取得を達成したが、これからも定期的な職員採用や職員各々が資質向上を目指し、研修等への参加も推奨していく。

第3次3ヶ年計画の1年目を終え、グループホームの新築に向けて、準備を進めている。また、近隣地域や住民との協働への取り組みも少しずつ進んでいる。

## 一 法人運営

### 1 会議等の開催状況

#### (1) 評議員会(2回開催)

- R3. 定時 R3. 6. 28 令和2年度決算及び事業報告、第12期役員を選任
- R4. 3月 R4. 3. 14 令和4年度事業計画及び資金収支予算、役員等報酬規程の改訂、令和3年度予算の補正、運営サービス適正化に関する規程による第三者委員の委嘱報告、職員の異動報告

#### (2) 理事会(4回開催)

- 第91回 R3. 6. 2 令和2年度決算及び事業報告、管理運営規程の改訂、第3次3カ年計画、第12期役員を選任、評議員選任・解任委員会委員の選任、令和3年度定時評議員会の招集
- 第92回 R3. 6. 28 理事長の選定、副理事長及び常務理事の選定、評議員選任・解任委員会委員の選任、
- 第93回 R3. 10. 27 法人の今後の業務執行、令和3年度予算の補正、給与規程の改訂、理事長及び常務理事の職務執行状況報告
- 第94回 R4. 3. 2 令和4年度事業計画及び資金収支予算、管理運営規程の改訂、経理規程の改訂、給与規程の改訂、役員等報酬規程の改訂、運営サービス適正化に関する規程による第三者委員の委嘱、重要な職員の選任解任、理事長及び常務理事の職務執行状況報告、令和4年3月評議員会の招集

#### (3) 監査

監事は、理事会並びに評議員会に出席し、理事の職務の執行状況を監査した。また、決算等の監査結果を報告した。

R3. 5. 25 令和2年度事業及び会計処理全般の監査実施

#### (4) 施設運営会議

- ・開催回数 46回(毎週水曜日午後定例開催)
- ・構成員 正副理事長、常務理事、施設長(管理者)、事務長

### 2 法人運営事務

#### (1) 規程等の制定、改訂

- ・役員等報酬規程の改訂 第94回理事会 令和4年3月評議員会
- ・管理運営規程の改訂 第91回理事会 第94回理事会
- ・経理規程の改訂 第94回理事会
- ・給与規程の改訂 第93回理事会

(2) 役員等の研修状況（主なもの）

- ・生涯研修管理者課程 県社協オンライン（8/6） 2人
- ・虐待防止・権利擁護研修会 市・県オンライン（7/20、10～1月） 4人

(3) 登記関係

- ・資産総額の変更（R3.6.29 登記申請）

(4) 協定・賃貸借契約等関係

- ・長野市有財産賃貸借契約、ワークス西駐車場分（契約期間3年）  
契約日 H28.4.1（面積変更 R2.12.1）当年度分 666,148 円
- ・「いなだの家」建物賃貸借契約（20年契約）  
契約日 H16.4.14 月 130,000 円
- ・「のくとまーる」当初の建物賃貸借契約（自動更新）  
契約日 H24.3.26 月 150,000 円
- ・「のくとまーる」の定員増分及び207号（物置）の建物使用貸借契約（自動更新）  
契約日 H24.9.25 月 140,000 円
- ・「のくとまーるサテライト」グランステージ長野101号（契約期間2年）  
契約日 H30.9.14 月 33,000 円
- ・駐車場賃貸借契約 第2駐車場分（自動更新）  
契約日 H26.4.1  
契約変更 H28.6.1（一部返還） 変更後 月 18,000 円
- ・「こまざわハウスサテライト」Fドエル204号（稲田）  
契約日 R2.9.1（契約期間2年） 月 30,000 円
- ・「こまざわハウスサテライト」イーストビレッジB棟103号（北堀）  
契約日 R2.9.1（契約期間2年） 月 35,000 円
- ・「いなだの家サテライト」レジデンス KURASAWA306号（石渡）  
契約日 R2.9.1（契約期間2年） 月 30,000 円
- ・職員勤怠管理システム関連  
クロノクラウド等サービス 契約先 ㈱ミロク情報サービス  
契約日 R2.9.9（R3.1～支払） 月 16,500 円
- ・自動販売機設置協定（本部・ワークス上駒に各1台設置）  
協定日 R3.3.5 協定先 ダイードリンク㈱  
販売手数料＝1月の総売り上げの18%
- ・自動車リース契約・・・カーソリューションズ㈱  
R3.9/17～60か月 日産セレナ フレッシュとくま等送迎用…新車リース 月 51,150 円
- ・自動車リース契約・・・八十二オートリース㈱  
R4.1/28～60か月 タント グループホーム …新車リース 月 27,830 円  
R4.1/28～60か月 タント 相談室（特定相談） …新車リース 月 27,830 円

R4.2/1～	36か月	ライフフレッシュ(宿泊)	…リースバック	月	10,120円
R4.2/1～	35か月	ヴィッツフレッシュ(宿泊)	…リースバック	月	13,970円
R4.2/1～	72か月	ハイゼットカーゴワークス(継続B)	…新車リース	月	24,420円
R4.2/1～	41か月	サクシードワークス(継続B)	…リースバック	月	19,140円
R4.2/1～	51か月	アルトワークス(継続B)	…リースバック	月	11,220円
R4.2/1～	49か月	アルトてくてく(居宅)	…リースバック	月	11,440円

(5) 業務委託等の契約

- ・廃棄物処理委託定期契約(宝資源開発株) H24.6.11(契約)  
H31.2.1(覚書)  
R4.4.1(改訂) 月 15,147円

- ・清掃業務委託契約(フレッシュ個室エアコンクリーニング)(株)サニクリーン甲信越)  
9台 7月実施 198,000円

- 清掃業務委託契約(フレッシュとくまのトイレ、風呂、窓等)(ワークス上駒)  
R3.6.1 6月・9月・12月実施 37,400円

- ・小型エレベーターメンテナンス契約 ワークス上駒(パナソニックホームエレベーター株)  
H23.4.1(自動更新) 年 111,100円

- ・荷物昇降機保守点検契約(株)カリフトコーポレーション)H13.2.1(自動更新) 年 74,800円

- ・自動ドア保守管理業務委託契約(本部・ワークス上駒)  
(株)長野パゴ) H30.6.1(自動更新) 年 158,400円

- ・受水槽清掃保守点検契約(株)三京) H25.9.1(自動更新) 年 33,000円

- ・警備契約(新日本警備保障株)  
本館 H26.2.10(契約期間5年間) 月 9,900円  
こまざわハウス,いなだの家 H26.2.15(契約期間5年間) 月 15,070円  
のくとまーる H26.2.10(契約期間5年間) 月 10,780円

- ・消防用設備保守点検契約  
スローステップ分(ホーチキ株) H23.4.1(自動更新) 年 48,400円  
本館分(ホーチキ株) H28.4.1(自動更新) 年 264,000円  
ワークス上駒分(株)ナショナル防災) H23.4.1(自動更新) 年 49,500円  
こまざわハウス(新日本警備保障株) H26.3.1(自動更新) 年 22,836円  
いなだの家(新日本警備保障株) H26.3.1(自動更新) 年 37,708円

- ・ホームページ運用サポート契約(株)ディーエスブランド)  
H28.12.26(1年更新) 年 55,000円  
(ホームページ更新せず3月終了)

- ホームページ新規作成(株)いとう R4.2.1 502,700円

- ・コピー機保守契約 本部(株)葛友)  
H29.9.14(5年間) 白黒1枚2.1円、カラー14円

- ・コピー機保守契約 ワークス上駒 (株) 葛友 H25. 11. 15 (5 年間)  
1 セット 45, 100 円/5 千枚
- ・健康診断委託契約 (財) 全日本労働福祉協会 H13. 1. 17 (自動更新)  
(R3 年度実績) 32 人 314, 943 円

### 3 施設及び設備整備事業について(新規契約)

#### (1) 固定資産購入等の契約

##### (取得)

##### (有形リース資産)

- ・自動車リース(日産セレナ) 日本カーソリューションズ  
(フレッシュ生活介護) 1 台 R3. 9. 25 3, 069, 000 円

##### (器具備品)

- ・ノートパソコン (相談) 1 台 R4. 3. 22 117, 690 円
- ・エアコン (スローステップ) 9 台 R4. 1. 7 1, 925, 000 円
- ・エアコン (GHいなだの家) 1 台 R4. 3. 22 122, 800 円

#### (2) 施設整備及び設備整備の契約 新規対象なし

### 4 資金の状況について(R4. 3. 31)

- ・寄附金収入 777, 594 円
- ・当年度資金収支差額 △ 20, 823, 640 円
- ・当年度施設整備等資金積立額 134, 000 円
- ・年度末施設整備等積立金総額 45, 134, 000 円
- ・年度末純資産総額 564, 489, 717 円
- ・年度末借入金残額 13, 230, 000 円

### 5 人事管理について

#### (1) 職員の資質の向上と公正な人事管理を目的とした人事管理システムにより次のとおり実施した。

##### ア 人事考課(業務管理)の実施

前期(4月~9月)業務の自己評価と施設長による評価を行った。

#### (2) 雇用状況について(R3. 4~R4. 3)

- ・採用 正職員 0 人、嘱託職員 1 人、非常勤職員 6 人
- ・退職 正職員 1 人、嘱託職員 1 人、非常勤職員 3 人
- ・継続 嘱託職員 1 人、非常勤職員 1 4 人
- ・R4. 3. 31 在籍職員数(3月末退職者含む) 4 3 人  
正職員 2 5 人、嘱託職員 1 人、非常勤職員 1 7 人(内当直職員 5 人)

## 6 職員研修について

職員研修実施要綱（基本計画）に基づき、「令和3年度研修計画」を策定して計画的な職員研修を行った。なお、コロナ禍で対面からオンライン研修に切り替わり減少した。

### (1) 内部研修

- ・各事業所内でのOJTによる研修の実施（新規職員等）（年間）
- ・朝の職員連絡会議で内容報告（毎日）
- ・各事業所単位ミーティングで伝達研修（週1回）
- ・月例職員会議での職員周知のための伝達講習（月1回）

（R3.11.24 法人の障がい者虐待防止マニュアルの施行研修、R4.3.30 キャリアパス（求める職員像）研修、ヒヤリハット事例等報告として職員会議で周知伝達研修実施）

### (2) 外部での一般研修受講

- ・受講した研修等の項目と延べ日数 29項目・62日
- ・研修等受講者延べ数 44人
- ・一人当たり平均研修日数 1.4日
- ・29項目研修開催地（長野市内5、長野市以外県内0、県外0、オンライン24）

## 7 施設及び事業経営について

### (1) 施設等の経営状況

#### ①指定生活訓練事業（フレッシュとくま）

・日中 定員 6人 日平均利用者数 7.1人

#### ②指定宿泊型訓練事業（フレッシュとくま）

・宿泊 定員 17人 日平均利用者数 11.0人

③指定生活介護事業（フレッシュとくま）定員 17人 日平均利用者数 17.9人

#### ④指定短期入所等事業（フレッシュとくま）定員 3人

\*自立体験事業・私的利用を含む 日平均利用者数 0.8人

⑤指定就労移行支援事業（ワークス上駒）定員 6人 日平均利用者数 0.8人

#### ⑥指定就労継続支援B型事業（ワークス上駒）定員 34人

日平均利用者数 31.2人

#### ⑦指定就労定着支援事業（就労定着支援室）定員 なし

月平均登録実人数 3.4人

#### ⑧地域活動支援センターⅢ型（スローステップ）定員 15人

日平均利用者数 12.8人

⑨指定一般相談支援事業（相談室）地域移行支援利用延べ月数 26月

地域定着支援利用延べ月数 60月

⑩指定特定相談支援事業（相談室）サービス等利用支援

224件



継続サービス等利用支援 521 件

⑪指定共同生活援助事業（グループホーム） 定員 25 人  
日平均利用者数 21.6 人

⑫指定自立生活援助事業（自立生活支援室） 定員 なし  
月平均登録実人数 4.1 人

⑬指定居宅介護・重度訪問介護事業（ヘルパーステーションてくてく）  
定員 なし  
月平均登録実人数 16.9 人

(2) 事故等の状況 利用者の保険請求分 0 件  
(GHで釘踏み事故 1 件)

(3) 苦情解決状況（第三者委員報告）

苦情受付日	苦情内容	解決経過
6/21～7/5	利用者より第三者委員に、スタッフが威圧的で高圧的でこのままでは殺されてしまう。りんどうは早く私をやめさせたい。ストレスで突発性難聴になってしまった等23回にわたりショートメールが入る。	最初にメールが入った日の翌日通院したところ怠棄していたことが判明する。突発性難聴については検査をし、入院治療となった。退院後には特別訴え等は無くなった。
7/6	利用者より第三者委員に、家で夫に洗面器で叩かれ、身の危険を感じた。警察に通報し、住むところを探しているが保証人の問題もあり決まらない。今後どうしたらよいかとの相談が入る。	第三者委員から女性相談センターの紹介及び、今後離婚を考えるのであれば家庭裁判所の調停手続きを利用するなどの助言をする。いずれにしても専門的な機関の支援を受けることを進めた。その後長野市に相談息子たちが保証人になり、アパートでの一人暮らしに移行した。
10/7	利用者より第三者委員に、担当スタッフの言動に疑問を感じ、信頼できなくなっているため、担当を替えて欲しいとの要望が寄せられた。	第三者委員が施設長に報告するとともに、その後数回にわたり本人の聞き取りをする。気持ちに変わりはなかったため、担当スタッフを変更した。

(4) 防災・安全対策

・地震台風等災害のための消火・避難訓練

フレッシュとくま 12 回、ワークス上駒 2 回、 スローステップ 2 回、  
グループホーム（いなだの家・こまざわハウス・のくとまーる 各 2 回）

・消火設備等の点検 2 回実施（専門業者に委託）

・感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、利用者及び職員等の検温記録、3密回避、マスク、手洗い、消毒等の徹底、施設内の感染防止として非接触型手指消毒機、水栓蛇口ロックのレバー、職員のコロナ感染予防特別休暇等対応した。

## 8 第3次3ヵ年計画の進捗状況について

### (第3章 計画の内容)

#### (1) グループホームの建設について

- ・社会福祉施設等施設整備費国庫補助金採択により令和5年度の開設に向けて実施設計等入札手続き準備中

#### (2) 利用者家族の高齢化社会的孤立防止について

- ・成年後見をやっている社会福祉士の成年後見の取り組み、課題等について話を伺い、今後の検討事項とした。

#### (3) 生産活動の実施に当たり地域や地域住民との協働の取り組みについて

- ・インスタ投稿 22回、フォロワー 86人
- ・赤飯受注 24件、300パック、工賃収益 75,000円
- ・新商品開発、販路等拡大・・・公民館の草刈り受注

#### (4) その他

- ・事業継続計画（BCP）のマニュアルを継続して作成中

## 9 その他

- ・会報誌（No62～No63）の発行
- ・年報（令和2年度版）の発行
- ・地域、行政、関係団体、地元組織等との連携協力を努めた。（コロナの影響により減少）
- ・長野市障害者自立支援協議会（長野市障害ふくしネット）への参加協力をした。
- ・視察や見学・学生実習・職員研修生等を受け入れた。（コロナの影響により減少）  
長野大学1名、高崎福祉医療カレッジ1名実習生  
その他、長野看護専門学校・須坂看護専門学校・清泉女学院大学看護学部より複数名実習受け入れた。

## 二 各サービス事業の実績

### 1 指定生活訓練事業 (定員6人) (フレッシュとくま)

年間実利用者数は、17人で、作業所への通所や宿泊型退所につき10人が解約した。  
 一日の平均利用者数は7.1人でした。  
 利用者各々の今後の生活に必要な事を支援することで、自信に繋がった。

#### (1) 重点事項

- ア その人らしい生活ができるよう、自主性・自発性の尊重
- イ 新型コロナウイルス感染予防の徹底
- ウ 利用者の確保による経営の安定

#### (2) 取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
  - (ア) 3ヶ月ごとに振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。
  - (イ) 個人の目標がぶれないよう、今やるべきこと・目指すべきことを利用者と常に確認した。
- イ 新型コロナウイルス感染予防の徹底
  - (ア) 手洗い、消毒の徹底
  - (イ) 毎日の健康チェックの実施
  - (ウ) 定期的な換気と館内の消毒
- ウ 利用者確保する
  - (ア) 年間を通し医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。
  - (イ) ホームページでの情報発信をした。
  - (ウ) 必要な利用者への送迎を行った。

#### (3) 実績

##### ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和2年度	1,634	6.8	29	17
令和3年度	1,711	7.1	17	10
比較	77	0.3	△12	△7

##### イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	12	13	11	11	9	9	8	8	8	8	8	7	9.3人
開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	18	22	241日
延利用者数	167	138	190	172	143	127	139	111	134	126	115	149	1,711人
平均利用者数/日	8.0	7.7	8.6	8.6	7.2	6.3	6.6	5.5	6.7	6.6	6.4	6.8	7.1人

(4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

管理者、サービス管理責任者、生活支援員、訪問支援員、看護師

まとめと課題

- ・個別支援計画に基づき、各自の目標がぶれないよう確認しながら目標達成に繋げた。
- ・今年度も午前中をグループ活動とし、午後を個別支援の時間としたことで、より個別の目標への支援に繋がられた。
- ・コロナの影響で宿泊訓練の新規の利用者が少なかったため、必然的に日中の生活訓練の新規利用者も少なかった。
- ・宿泊訓練と併用している利用者より、通所の利用者の定着率が低い。

資料 (令和4年3月31日現在)

障害福祉サービス支給市町村

(人)

性別 数	長野市	千曲市	須坂市	飯綱町	飯山市	筑北村
男 9	6	0	1	0	1	1
女 8	5	2	0	1	0	0
計 17	11	2	1	1	1	1

2 指定宿泊型訓練事業 (定員 17人)

(フレッシュとくま)

一日の平均利用者数は11.0人でした。

利用者のうち6人が退所した(アパートが3人、グループホームが1人、施設入所1人)また、新たに自宅から2人、病院から4人が入所した。

(1) 重点事項

- ア 利用期間の長短にとらわれない考え方のもとで、個人に合った生活スタイルで地域での新たな生活への展開の検討
- イ 相談支援事業所、医療機関、行政等との連携による利用者確保

(2) 取り組み

- ア 個別支援計画に基づいて質の高い支援
  - (ア) 3ヶ月ごとの振り返りを行い、要望等を聞き取りニーズに反映した。
  - (イ) その人にあった地域生活ができるように支援した。

イ 利用者の確保

- (ア) 年間を通して医療機関、行政等との情報交換や協力をお願いした。
- (イ) ホームページでの情報発信をした。

ウ 安全で衛生的な環境への配慮

- (ア) 新型コロナウイルス感染予防の徹底のため、食事の時間をずらし、また、対面で食事をとらない座席の配慮をした。
- (イ) 毎日2回の検温を実施した。
- (ウ) 換気・マスク着用の徹底をした。
- (エ) 防災設備の定期的な点検、維持を行った。
- (オ) 防災訓練を年2回実施した。
- (カ) 生活の場にふさわしい快適な環境を提供した。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和2年度	4,045	11.1	24	14
令和3年度	4,005	11.0	16	6
比較	△40	△0.1	△8	△8

イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	10	10	12	13	12	12	11	9	10	10	10	10	10.8人
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	325	310	360	403	379	350	369	294	322	308	275	310	4,005人
平均利用者数/日	10.8	10.0	12.0	13.0	12.2	11.7	11.9	9.8	10.4	9.9	9.8	10.0	11.0人

(4) 職員体制 (R4.3.31)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 地域移行支援員 看護職員 調理員  
宿直者

まとめと課題

- ・1人がライフサポートりんどうのグループホームに転居した。  
転居のタイミングは、グループホームの空き室との関係で調整した。
- ・入所が本人の希望というよりは、退院して住む場所がない、自宅に居られないため入所するという理由が多いため、訓練の意義が見いだせない人にどう支援していくのか。

- ・きめ細かく関係者を招集して、成果や課題を共有して、退所後の生活に繋げていく。
- ・入所期限にこだわらず、個別に支援していく中で入所の意味やフレッシュでやるべきことを確認できた。

### 3 指定生活介護事業（定員 17 人）（フレッシュとくま）

一日の平均利用者数は 17.9 人でした。

日中過ごす場所として利用希望者が増加している。体操やストレッチで健康維持の支援を行ったり、血圧や体重測定を行うことで体調不良を早期発見できるようにした。軽作業も取り入れ、活動にメリハリをつけた。

#### (1) 重点事項

- ア 健康維持と体調管理をして、安定した地域生活ができるよう支援
- イ 生活の充実とやりがいを見出す支援

#### (2) 取り組み

- ア 体調維持
  - (ア) 看護職員による健康チェック、健康体操
  - (イ) 入浴、洗濯、食事の支援
  - (ウ) 軽作業の生産活動

#### (3) 実績

- ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和2年度	4,005	15.3	44	3
令和3年度	4,437	17.9	46	8
比較	432	2.6	2	5

- イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
契約者数/月	21	18	24	28	26	27	27	29	29	29	31	33	23.8人
開所日数	23	21	24	20	20	20	21	20	20	19	18	22	248日
延利用者数	376	346	417	360	361	379	377	358	390	360	338	375	4,437人
平均利用者数/日	16.3	16.5	17.4	18.0	18.1	18.9	18.0	17.9	19.5	18.9	18.8	17.0	17.9人

(4) 職員体制 (R4. 3. 31 現在)

管理者 サービス管理責任者 生活支援員 嘱託医 看護職員

まとめと課題

- ・新規の契約者が昨年より5人増え、ほとんどの人が継続利用となっている。
- ・看護師による健康相談や、緊急時の対応がスムーズにできた。
- ・軽作業に取り組むことで、活動にメリハリがついた。
- ・入浴支援等で清潔保持がより一層できるようになった。
- ・欠席者が毎日数人あることを考慮して定員を若干オーバーした受入体制を整えているが、通所日には安定して通えるようにしたい。
- ・送迎希望者が増え、送迎ルートと時間の調整が複雑になっている。
- ・利用者像として、清潔の保持が難しい人や、内科疾患への対応等、高齢者施設での支援に近い対応が求められてきている。
- ・退所理由が死亡という利用者が2人いた。日頃の体調を観察し、必要あれば医療機関へ情報提供や家族への情報提供に努めている。今後もさらに利用者への健康観察が重要になってくると思われる。
- ・新規利用希望者も増え、継続利用者の利用日の増加が相次ぎ、定員を超える日も増えている。今後も今の状況が続くと、フロアのスペース的な問題と職員数を根本的に見直す必要がある。
- ・今後、若い世代の利用者に向けては介護だけに留まらず、次のステージへの移行につながるべく、働きかけを行う必要がある。

資料 (令和4年3月31日現在)

年代別数

(人)

性別 数	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上
男 22	0	1	4	7	10
女 18	1	0	4	5	8
計 40	1	1	8	12	18

障害支援区分別数

(人)

性別 数	区分 2	区分 3	区分 4
男 22	10	10	2
女 18	8	10	0
計 40	18	20	2

#### 4 指定短期入所事業 (定員3人) (フレッシュとくま)

(地域移行・自立生活訓練事業)

一日の平均利用者数は0.8人でした。

宿泊型訓練の体験利用だけでなく、定期利用者を受け入れた。

##### (1) 重点事項

- ア 緊急利用も受け入れられる体制
- イ 個々のニーズに対応
- ウ 行政、医療機関、長野市障害ふくしネット等との連携

##### (2) 取り組み

- ア さまざまな利用目的に対応し受入れをした。
- イ 家族、ケアプランナー、病院のケースワーカーとの連携をした。
- ウ 病院からの地域移行の体験利用で受入れをした。

##### (3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	実利用者数
令和2年度	591	1.6	23
令和3年度	284	0.8	20
比較	△307	△0.8	△3

イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日
延利用者数	27	28	38	35	35	17	23	19	20	18	0	24	284人
平均利用者数/日	0.9	0.9	1.3	1.1	1.1	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.0	0.8	0.8人

##### (4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

管理者            支援員

##### まとめと課題

- ・定期利用者に対して、各々の利用目的に合った支援ができた。
- ・体験利用者については入所を視野に入れた形で、活動の予定を立てた。
- ・コロナ感染対策で病院からの地域移行の依頼がなかった。
- ・コロナ感染の警戒レベルが高くなったことにより2月は受け入れをお断りした。
- ・個々の目的に合った利用を提案し、目的を支援者間でも共有することが必要と考える。



## 5 指定就労移行支援事業（定員6人）（ワークス上駒）

令和3年度は、一般企業等への就労者を1人出すことができた。

就労アセスメントを2人に行い、うちアセスメント前からB型の希望があった1人がワークス上駒B型の利用者となった。毎年、就労移行の希望者が減少していることもあり、当初は今年度末をもって事業終了予定であったが、人員配置の関係から、急遽1月末で終了とした。

1日平均利用者数は0.8人だった。

### (1) 重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 就労に向けて、知識及び労働習慣等習得のための支援
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 就労に向けて関係機関と連携した支援
- オ 就労定着の充実

### (2) 取り組み

- ア 3か月ごとの個別支援目標の振り返りや確認等行い、ステップアップを図った。
- イ 利用者個々の特性を活かして作業訓練を行った。
- ウ 特別支援学校と連携し、就労支援に当たった。
- エ B型利用希望者に対して、アセスメントを行った。
- オ 利用者の楽しみやリフレッシュとなるよう、事業所内で行事を実施した（カンマッセの食事会・お楽しみ会等）。

### (3) 実績

ア 年度比較 (人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和2年度	706	2.9	13	8
令和3年度	197	0.8	3	3
比較	△509	△2.1	△10	△5

イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19			201日
延利用者数	46	48	50	33	8	12	0	0	0	0			197人
実利用者数/月	3	3	3	4	1	1	0	0	0	0			1.3人
平均利用者数/日	2.2	2.7	2.3	1.7	0.4	0.6	0	0	0	0			0.8人
平均利用日数/人	15.3	16.0	16.7	8.3	8.0	12.0	0	0	0	0			6.9日
就労者数					1								人

(4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 就労支援員

職業指導員 生活支援員

(5) 就職者の状況

(人)

人数/年度	令和2年度	令和3年度
人数	2人	1人

まとめと課題

- ・利用者の減少により、1月をもって事業所が終了となった。
- ・りんどうとして就労を目指した支援が継続できるよう、今後B型事業にも幅広い支援を取り入れていく。

資料 (令和4年3月31日現在)

年代別数

(人)

性別	数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代
男	2	0	1	0	1
女	1	0	0	0	1
計	3	0	1	0	2

6 指定就労継続支援B型事業 (定員34人) (ワークス上駒)

コロナの影響で、屋内作業の中心となっているお土産加工の仕事が安定せず、全く先が読めない状況が続き、作業量の確保について工面することが多かった。

屋外作業を多く取り入れたことで、外作業の仕事の依頼が増え、収入の安定につながり、工賃が増えたことで、作業にやりがいを感じる利用者が多かった。

地域に向けた自主製品のPRに努め、多くの依頼を受けたり、作業の効率化を図り、作業内容や作業環境の見直しを行った。

1日平均利用者数は31.2人だった。

(1) 重点事項

- ア 利用者個々の自己到達目標に向けての支援
- イ 目標工賃達成指導員を中心に、工賃アップと安定した作業量の確保
- ウ 作業能力の向上と労働意欲の育成
- エ 長期利用者のニーズの確認と、安定した利用に向けての支援
- オ 新型コロナウイルス感染予防の徹底

(2) 取り組み

- ア 6か月ごとの個別支援計画をもとに、個々のニーズの抽出を図りながら、その人に合った支援ができるような体制について方向づけた。
- イ 利用者の体調について常に職員間で共有しながら、安心感がある安定した作業が継続できるような支援を心がけた。
- ウ 年間を通して安定した作業量が確保できるよう、取引企業の開拓、仕事内容の交渉などを行った。
- エ 年間を通して、自主製品（お菓子・赤飯等）の研究や開発に努め、PRを重ねたことで地域に役立てていただく機会が増えた。
- オ 清掃で関わっているカンマッセ主催のイイコネ祭りに参加し、自主製品（マドレーヌ）の販売を行った。
- カ 利用者の楽しみやリフレッシュとなるよう、ワークス内で行事を実施した（カンマッセの食事・お楽しみ会等）。
- キ 新型コロナウイルス感染予防に対する意識が持続するよう常に注意を促しながら、1日3回のアルコール消毒や換気の徹底をした。

(3) 実績

ア 年度比較

(人)

	延利用者数	1日平均利用者数	延契約者数	解約者数
令和2年度	8,586	35.6	57	6
令和3年度	7,568	31.2	56	5
比較	△1,018	△4.4	△1	△1

イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	18	22	241日
延利用者数	689	549	684	625	616	620	650	664	629	592	566	684	7,568人
実利用者数/月	48	48	48	45	49	49	49	50	49	47	48	47	48.1人
平均利用者数/日	32.8	30.5	31.1	31.3	30.8	30.6	30.0	33.0	30.5	31.2	31.4	31.1	31.2人
平均利用日数/人	14.4	11.4	14.3	13.9	12.6	12.5	12.9	13.2	12.4	12.6	11.8	14.6	13.0日

(4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

管理者 サービス管理責任者 職業指導員  
生活支援員 目標工賃達成指導員 調理員

まとめと課題

- ・前年に比べ体調不良により入院した利用者が数名いたことや、昨今の不安を脅かす不安定な環境によって、不調で休む利用者も多かったように感じた。また今後、ゆったりんどうへ数名の利用者が移行の希望があるため、定員割れを引き起こす可能性がある。また、企業が多く参入しているなか、今後、事業所としての特色を出していくことが大事だと思われる。利用者にとって魅力あるB型事業所について研究し目指していくことが必要と考える。
- ・就労移行支援事業所が終了したことで、特に就職を目指す若い利用者に対しては、個別の支援が必要となっている。地域で職場見学や職場体験の受け入れ可能な企業を開拓し、目標に沿った継続した支援ができるよう進めていく。
- ・今後も、仕事を通して顔の見える事業所となるよう、ボランティア等も取り入れながら地域に働きかけをしていく。

資料 (令和4年3月31日現在)

年代別数

(人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男 32	0	4	4	10	10	4
女 18	2	1	0	8	4	3
計 50	2	5	4	18	14	7

月別工賃支給状況

(小数点以下切り捨て)

月	支給人員 (人)	工賃支給金額 (円)	
		月平均額	月最高額
4	50	12,478	41,310
5	49	10,681	29,150
6	50	13,300	35,300
7・賞与	52	24,686	62,889
8	49	10,788	39,950
9	50	11,565	48,030
10	49	11,903	29,930

11・賞与	52	36,660	95,180
12	49	12,718	37,730
1	46	11,003	31,700
2	47	10,395	34,340
3・賞与	48	45,734	130,250
平均月額		(R2年度) 17,294円	(R3年度) 17,776円

## 7 指定就労定着支援事業（定員なし）（ワークス上駒 就労定着支援室）

令和3年度は4人の方に対して、就労継続の為の支援を実施した。

### （1）重点事項

- ア 就労定着支援計画に基づいたサービスの提供
- イ 月1回以上の対面による面接等の実施
- ウ 月1回以上の企業訪問
- エ 企業・関係機関・家族等との連絡調整

### （2）取り組み

- ア 目標を決めて個別支援計画に反映した。
- イ 月に1度の面接日を決めて実施し、家や職場での様子を聴いた。
- ウ 生活面での聞き取り等で通院の勧めや生活費について改善を促した。
- エ 企業を訪問して、職場での様子から困っていること等を伝えた。
- オ 職場環境がより働きやすくなるよう心掛けた。

### （3）実績

ア 年度比較

(人)

	契約者数	新規利用者数	解約者数
令和2年度	4	0	1
令和3年度	4	1	0
比較	0	1	△1

## イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・合計
開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	18	22	241日
延べ支援回数	4	4	6	5	4	5	3	9	7	7	10	8	72回
登録実人数/月	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3.4人

### (4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

施設長 サービス管理責任者 就労定着支援員 職場適応援助者

#### まとめと課題

- ・ 職場訪問、面談等で職場でのコミュニケーションの取り方や生活面への助言を行い、必要に応じて関係機関と連携した。
- ・ 県のチャレンジ雇用（3年間）修了者を次のステップに繋いでいく為、求職活動を一緒に行ない、次の企業に就労することができた。
- ・ 今後登録者を増やしていく為に、広報活動等の取り組みをしていく必要がある。

## 8 地域活動支援センター事業（Ⅲ型）（定員 15 人）（スローステップ）

今年度は感染症対策として換気や消毒などこまめに行った。

平成 12 年から始めた地域活動支援センター事業を令和 3 年度末で終了とした。

法定の障害福祉サービスが始まる前から長野市の補助金で実施してきた。りんどう会においても、中心的な事業の 1 つであったが、他の福祉サービスの充実や利用者ニーズの変化により利用者数や補助金の減少で基準の職員体制を維持していく事が困難となったため、廃止とした。

### (1) 重点事項

- ア 法定サービスでは対応できない自由に憩える場の提供
- イ 利用者同士の交流やピア活動の場の提供
- ウ 相談等個別の支援

### (2) 取り組み

#### ア 基礎的事業

- (ア) 交流室利用者（来所者） 3,137 人
- (イ) 創作・生産活動  
（木工、手芸、ぞうり作り等） 312 人

イ 機能強化事業

(ア) 来所相談	313 人
(イ) 電話相談	349 人
(ウ) 地域ボランティアの受け入れ	96 人
(カ) 地域交流事業 地区清掃	19 人

(3) 実績

ア 開所日数 241 日

イ 利用契約者数 52 人 (R4.3.31 現在)

ウ 年度比較 (人)

	延べ利用者	1 日平均利用者数	新規契約者数	解約者数
令和 2 年度	3,463	14.6	3	3
令和 3 年度	3,085	12.8	0	52
比較	△326	△1.8	△3	49

エ 月別利用実績

令和 3 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均/合計
開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	241 日
延べ利用者数	317	258	333	300	258	254	274	254	240	194	179	224	3,085 人
平均利用者数/日	15.1	14.3	15.1	15.0	12.9	12.7	13.0	12.7	12.0	10.2	9.4	10.7	12.8 人

オ 障害福祉サービス支給決定市町村

(人)

長野市	45	信濃町	2	千曲市	3	須坂市	1	新潟県	1
-----	----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

(4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

施設長 支援員 (常勤・専従) 専門職員 (常勤・兼務)

まとめと課題

- ・事業終了にあたり、法人内の他のサービスの利用者には各々の事業所で支援を継続する。
- ・登録者全員に説明会や相談会を開き支援が途切れないようにした。
- ・特に就労していたり、高齢のため、法定サービスが利用できない人に対し必要な支援が継続できるよう配慮した。

## 9 指定一般相談支援事業（地域移行支援事業・地域定着支援事業）（相談室）

地域移行支援は令和2年度に続き令和3年度もコロナウイルス感染症の影響で計画通りに行なえていない。入院患者を外出させることで病棟に感染症を持ち込ませたくない病院のリスク管理が大きく影響している。諸事情から退院しないまま終結したケースもあり、状況的に支援自体が厳しかった。

地域定着支援では定期での状況確認のみで、緊急での対応はなかった。稀に「少し話を聞いてほしい」なども電話連絡があり、対応している。

### （1）重点事項

- ア 精神科病院、市町村等と連携しての地域移行支援の実施
- イ 相談者主体の地域移行支援の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- ウ 関係機関との情報共有、連携強化

### （2）取り組み

- ア 地域移行支援（地域移行支援計画の作成等、地域生活移行のための相談、外出同行、障害福祉サービスの体験利用、体験的な宿泊支援）
- イ 地域定着支援（地域定着支援台帳作成、連絡体制の確保、緊急時の状況把握・対応等）
- ウ 連携による地域生活支援（関係機関との連携強化）

### （3）実績

- ア 地域移行支援

	利用実人数	利用延べ月数	継続支援者数
令和2年度	5人	8か月	0人
令和3年度	4人	26か月	1人
比較	△1	18	1

- イ 地域定着支援

	利用実人数	利用延べ月数	緊急時支援
令和2年度	6人	64か月	0回
令和3年度	5人	60か月	0回
比較	△1	△4	

### （4）職員体制（R4.3.31 現在）

管理者 相談支援専門員、地域移行・定着支援員



## まとめと課題

地域移行支援では、退院し生活介護、居宅介護を使って一人暮らしを始めた人、宿泊型自立訓練施設に入所した人、退院に至らなかった人、支援継続中の人がそれぞれ1人ずつであった。

- ・地域移行で関わったケースの中には、地域移行支援6か月を1年に延長しても、緊急事態宣言や体調不良で福祉サービスに移行できないうちに期限を迎え、協議の結果、一旦支援を終結したのもあった。(状況が整えば、再度申請から行う方向)

- ・病院のリスク管理、当事者一人一人の状況、福祉支援者としての思いと感染状況の中で昨年度以上に支援がスムーズにいかない1年だった。

- ・地域定着支援では利用者数に変更はなかった。実際の緊急時対応などを必要とすることはなくとも、サービスがあることで安心して生活できるという福祉サービスになっている。

## 10 指定特定相談支援事業（相談室）

- ・令和3年度は、専任2人兼務5人の相談支援専門員がサービス等利用計画の作成を行った。
- ・それぞれのニーズをしっかりと聞き取り、それに合った福祉サービスが行われるよう関係機関との調整を行い、サービス状況の確認を行った。
- ・令和2年度から始まった相談支援専門員の現任研修要件に漏れのないよう、各相談支援専門員の資格管理についても調整した。

### (1) 重点事項

- ア 基本相談支援としての総合的な相談支援の実施
- イ ケアマネジメントの手法による、質の高い計画相談支援の実施
- ウ 相談者主体の相談の実施と専門的力量を持った職員の育成強化
- エ 相談支援を実施するため、関係機関との情報共有・連携強化

### (2) 取り組み

- ア 生活全般に関わる一般的相談、電話・訪問相談、情報提供、関係者間の連絡調整
- イ サービス等利用計画の作成（サービス利用支援、継続サービス利用支援）
- ウ 専門性の更なる向上のため研修等に参加

### (3) 実績

- ア 相談

#### 相談者数と障がい別延件数

	実人数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合 計
令和2年度	256人	21件	49件	204件	13件	287件 (重複あり)
令和3年度	273人	27件	51件	209件	11件	298件 (重複あり)
比 較	17	6	2	5	△2	11

#### イ サービス等利用計画

##### 作成件数

(件)

	サービス利用支援	継続サービス利用支援
令和2年度	247	541
令和3年度	224	521
比 較	△23	△20

#### (4) 職員体制 (R4.3.31 現在)

管理者 相談支援専門員

#### まとめと課題

- ・令和3年度は相談支援専門員1名が産休育休に入ったため、専任2名と兼務5名で対応した。
- ・福祉サービスを終了するケースは定期的にあるため、現在の利用者に併せて、新規利用者も定期的に受け入れし、件数を維持できるように調整していく必要がある。
- ・令和4年度、法人内の事業変更に伴い、利用者の担当等についても見直しを行う予定。

### 1.1 指定共同生活援助事業（グループホーム）（定員25人）

指定共同生活援助事業（グループホーム）は以前に比べ、個別の支援が必要な方が増えてきている。

栄養管理や金銭管理に加え服薬管理や生活支援など多様な支援が求められた。社協や訪問看護等の事業所と連携を図りながら支援を行った。また、入居者の高齢化が進みつつあり、保証人の問題も出始めている。

今年度グループホームからの退所者は3人で、内2人が地域での一人暮らしに移行した。

新規利用者は2人で、うちフレッシュとくま（宿泊型訓練事業）からの入居者は1人であった。

世話人体制は利用者5人に対して世話人1人とし、看護師の配置により個別の体調管理を強化した。また、前年に引き続きワクチン接種の対応や食事を居室で取るなど感染対策に努めた。

### (1) 重点事項

- ア 居住の場の提供と日常生活においての必要な支援
- イ グループホームから次の生活の場への移行のための取組・援助
- ウ 退所後の安定した生活維持のための支援

### (2) 取り組み

- ア 日常生活について
  - (ア) 調理、掃除、買い物、金銭管理、服薬確認等を補助した。
  - (イ) 家族、日中活動先等の連絡調整を行った。
  - (ウ) 対人関係、日常生活の不安や課題へ相談支援を行った。
- イ 地区交流事業について
  - (ア) 地区の清掃事業に参加した（河川・側溝・公園・神社等）。
  - (イ) ゴミステーションの立ち合いを行った。
- ウ 日常支援について
  - (ア) 日中世話人が住居を巡回して在宅の利用者の支援を行った。
  - (イ) 午後3時頃からは、夕食準備の支援や相談等利用者の支援を行った。
  - (ウ) 土、日、祝日も世話人を配置し食事の提供を行った。
  - (エ) 看護師の定期訪問により健康管理に努めた。

### (3) 実績

- ア 年度比較（1日平均利用者数）

令和2年	21.7人	令和3年	21.6人
------	-------	------	-------
- イ 新規利用者 2人（フレッシュとくま 1人・家庭 1人）
- ウ 退所者 3人（一人暮らし2人他法人のグループホーム1人）
- エ 利用者数 25人／定員 22人（R4.3.31現在）

### (4) 職員体制（R4.3.31現在）

管理者 サービス管理責任者 世話人 支援員 看護師

### まとめと課題

- ・入居者一人ひとりの生活力（ADL）に差があり画一的な支援では足りず、個別の対応を求められた。
- ・生活の質（QOL）を高める為、返金をなくし乾燥機等を購入し生活環境を整えた。
- ・休日は見回りとお弁当で対応していた体制を、世話人を配置し食事提供をするようになった。
- ・アパートタイプのグループホームにおいても栄養バランス等考慮し、希望者には夕食の提供を行うようにした。

- ・令和4年度新規建て替えが決定し、設備等含め新しいグループホームの検討を進めた。
- ・高齢化が進み、保証人がいなくなってしまう利用者が出てきている。成年後見人制度の利用を含めグループホームとしての対応を検討していく必要がある。
- ・グループホームの方向性として一人暮らしへ移行する通過型を取ってきたが、一人暮らしを目指せない方が増えてきている現実があり、グループホームの方向性についても今後どうしていくのか再検討が必要となる。

資料（令和4年3月31日現在）

年代別数 (人)

性別 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
男 13	1	3	5	1	3
女 9	2	2	3	1	1
計 22	3	5	8	2	4

## 1.2 指定自立生活援助事業（定員なし）（自立生活支援室）

今年度は前年度から延長された2名の他、宿泊型からアパートに移った方や病院からアパートに退院された方等に対して日常生活の見守りや金銭管理等、安定した一人暮らしの定着に向け支援を実施した。金銭管理についてはいずれも社協の日常生活自立支援事業に繋げるべく、手続きを進めた。

### (1) 重点事項

- ・生活力・社会適応力を高め、安心して地域で生活できるような支援
- ・利用期間内にサービスの調整等を実施し、終了後の安定した生活の構築
- ・地域生活において生じる課題の解決に向け、取り組みを進め安心して生活が送れるような支援

### (2) 取り組み

#### ア 状況確認について

- (ア) 定期的な訪問・面接等により本人の生活状況を把握した。
- (イ) 必要に応じ銀行や医療機関への同行を行った。

#### イ 相談について

- (ア) 訪問及び面接時に困っていることや不安に思っていること等相談を受け、解決に向けて一緒に取り組んだ。

- (イ) 利用終了時を考え必要なサービスの情報提供や手続きを行った。
- ウ 関係機関との連絡調整を行った。
  - (ア) プランナーをはじめ、日中の利用施設など関係機関との連絡調整を行った。
  - (イ) 課題等の解決に向けての話し合いを開いた。

### (3) 実績

#### ア 年度比較

(人)

	延べ契約者数	新規利用者数	延長者数	解約者数
令和2年度	4	3	0	3
令和3年度	7	3	2	2
比較	3	0	2	△1

#### イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242日
延べ支援回数	27	24	25	24	34	25	25	25	45	34	31	33	352回
登録実人数/月	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4.1人
平均利用者数/日	1.3	1.3	1.1	1.2	1.6	1.3	1.2	1.3	2.3	1.8	1.7	1.3	1.5人

### (4) 職員体制(令和4.3.31現在)

施設長 サービス管理責任者 支援員

#### まとめと課題

- ・社協の日常生活自立支援事業は利用までに時間を要している現状である
- ・利用者側の必要性和支援者側の必要性に温度差を感じる
- ・人によっては利用開始時は毎日のように支援を行った
- ・令和3年度から支援期間が原則1年から必要に応じて延長され、今年度は2名の方に対し延長して支援を行った。
- ・支援の必要性について利用者との間で共有することが大切になる。
- ・期間中に習得できなかった課題について、サービス提供の終了後何処に繋いでいくのか考えなければいけない。
- ・利用者の確保をどのように進めていくのか検討していく必要がある。

### 1.3 指定居宅介護事業（定員なし）

開所をして1年半が過ぎ、今年度は19人の登録となった。徐々に登録者数が増えている。地域で暮らす障害者を支える支援として居宅を訪問し主に調理、掃除などの支援を行う。ライフサポートりんどうで行う居宅介護支援の特徴として精神障害の支援に特化しより専門的に体調を考慮した支援を行う。

利用者のニーズに合わせて支援し地域で安心して暮らせることを目指す。

#### (1) 重点事項

- ア 安定した地域生活の継続
- イ 利用者の日常生活及び社会生活の総合的支援

#### (2) 取り組み

- ア 調理・洗濯・掃除・買物・通院介助・その他必要な援助を行う。
- イ 必要に応じて健康や日常生活上の相談や助言を行う。

#### (3) 実績

##### ア 年度比較

	実契約者数	新規利用者数	解約者数
令和2年度	14	14	1
令和3年度	19	6	1
比較	5	△8	0

##### イ 月別利用実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	18	22	241日
延べ支援回数	49	39	51	40	51	53	61	59	59	52	44	52	610回
登録実人数/月	14	15	15	15	18	18	18	18	18	18	18	18	16.9人

#### (4) 職員体制（令和4.3.31現在）

管理者、サービス提供責任者、支援員

##### まとめと課題

- ・精神障害に特化した支援のため体調によってキャンセルもあったが、都度状態を確認しきめ細かに対応した。また入院や体調不良によるキャンセルも数件あった。
- ・だんだん利用契約者数も増加しているが、更なる増加を目指すには、職員配置等今後検討する必要がある。